

潮騒通信

潮騒ジョブトレーニングセンター

Drugs and Alcohol Addiction Rehabilitation Center

一部 100円

どっこい生きてます!

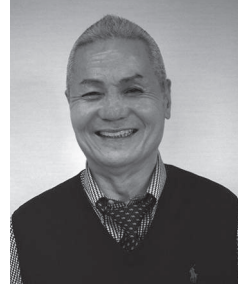


NPO法人・潮騒ジョブトレーニングセンターは4月21日、前年に引き続き行方市白浜の茨城県立白浜少年自然の家の芝生広場を会場に、施設単独イベントの「第2回・潮騒大運動会」を開きました。今回も入寮者全員に加え、関連施設や職員、家族会、支援者ら総勢250人が参加し、全員が紅白の2チームに分かれて熱戦を繰り広げました。昼休みには潮騒らしい応援合戦もあり、初夏を思わせる好天の青空に参加者の歓声が響きました。(4~5ページに記事、背表紙に写真)

2018

4

ファザー&マザーシップの 適度なバランスが大事



私のアディクトとしての生き方の指南役でもある近藤恒夫さん(日本ダルク代表)が、近著「真冬のタンポポ〜覚せい剤依存から立ち直る」(双葉社刊、定価1400円+税)を出版されました。以前に発行した「拘置所のタンポポ」を加筆・改稿したのですが、別物に仕上がっています。アディクトならずとも共感を抱く珠玉の言葉が随所にちりばめられており、私にとっては新たな施設運営のバイブルとなりそうです。今回、私はこの本で新たな発見がありました。それは近藤さんが、支援者の精神科医の分析的な視線を参考にしながら、自分の資質の原型をマザーシップ(母性=優しさ)にあると捉え直し、自らの家族環境や生育歴、仲間への向き合い方を掘り下げている部分です。依存症の背後には家族の問題が色濃く投影されています。私も入寮者家族の皆さんにお願いして毎月家族会を開いてもらい、当事者と並行する家族の回復と成長にも力を入れている事に自信を深めました。本通信でも不定期ながら、潮騒家族会のページを前号から設けさせて頂いています。今後、他の家族の皆さんにも「自分たちの回復のためにも是非メッセージを書いてほしい」とお願いします。

「真冬のタンポポ」の話に戻りますが、不思議な事に近藤さんも私も、父親の影が薄い事で共通しています。近藤さんは幼少期に両親が離婚した背景があり、私は物心つく前に父親を戦争で亡くしています。近藤さんは自立心の強い母親から多分に影響を受けて育ったようですが、私の場合は幼年・幼少期を継母の下で育ち、母親の愛情に飢えていました。小学校に上がる頃になって、叔父の話などでうすうす「真実」を知る訳ですが、もはやいてもたってもいられません。実母に会いたい一心で、独り母親の住む町を訪ねました。幼い子供ですから、道順などよく分かりません。戦後間もない時代だけに砂利道をバスで乗り継ぎ、あるいは土煙の舞う田舎道を足の裏に血豆をつくりながら、ひたすら訪ね歩きました。3度目の挑戦でやっと再婚先の家を見つけたのですが、再会した母は喜んで迎えてくれませんでした。母親は既に新たな生活基盤をつくっており、再婚先には自分に子供がいる事を隠していたようです。やっと会えた母親は言葉にこそ出しませんでしたが、「ああ、とうとうここに来てしまったか…」と複雑な表情を見せました。私は子供心にも再婚先での厳しい母親の立場を悟り、「もう二度とここを訪ねる事はしまい」と心に決めたのでした…。

何やらテレビドラマのようですが、私はここから生きていくために無理やりファザーシップ(父性=強さ)の獲得に向かいます。「男の強さは暴力だ」「ケンカに強くなるしかない」と思い込み、愚連隊そして任侠道へと突っ走りました。しかし、途中で覚醒剤とアルコールにおぼれ、任侠道もままならず人生を棒に振り掛けた私ですが、幸運にも60歳でダルクに助けられました。そうして今では、ファザー&マザーシップの適度なバランスこそが依存症の防波堤になる、と考えるに至りました。何事もそうですが、ほどほどで生きられる社会が私達の生き方には性に合っています。以上のように、近藤さんの著書から深い示唆を受けました。

(センター長 栗原 豊)

県立鹿島灘高校 入学



新年度も潮騒のスタッフ仲間2人が地元の県立高校に入学 栗原センター長ら「潮騒の先輩高校生」の存在が刺激に

4月は新年度のスタート月です。2018(平成30)年度も潮騒 JTCのスタッフと関連事業所の仲間二人が、地元の茨城県立鹿島灘高校(鹿嶋市志崎)に入学しました。同校で学んでいる潮騒の「先輩高校生」の仲間達も全員が進級しています。高校卒業の資格は就労支援に向けての大きな武器となるだけでなく、施設の活性化にも貢献してくれています。どうやら潮騒では、ここにきて地の利を生かした地元高校での、こうした「学び」の流れが定着しつつあるようです。今回、新たに入学したのはスタッフのカイジさんとデイサービス百寿スタッフのアサヒさんの二人です。このうちカイジさんが忙しい中、以下のような決意を語ってくれましたので、編集部で責任で文章化しました。

かつての青春学園ドラマのように 高校生活をエンジョイしたい

高校進学のかっけは単純です。決して構えた大袈裟な決意ではなく、「純粋に自分も勉強したくなった」ことに尽きます。自分は中卒で、みんなと教室で机を並べて勉強するのがとても苦痛で仕方ありませんでした。だから一日も早く社会に出て働きたかったのも、高校進学はまったく考えませんでした。なので、すぐに就職して働いたのです。でも、社会では中卒だと就ける職種や労働環

境はかなり限られます。いざ働きたすと「やはり日本は強固な学歴社会なんだ」と実感させられました。

そうした背景もあって、自分はいつの間にかクスリ(薬物)の方に興味が向かい、中卒のハンディを乗り越えようとしたのですが、やがて重症の依存症に陥ってしまいました。結果的に人生を棒に振ってきましたが、運よく潮騒に繋がることができました。でも、48歳の今日まで、必ずしも順調に回復の道を歩んできた訳ではありません。プレッシャーに弱いタチなので、出入りの多いスリッパを繰り返すダメな入寮者の一人です。

潮騒は他の施設と違って「何回でも失敗を認める」寛容さがありますが、自分はこれに甘えてはダメだと思っています。そんな中で、センター長らが年齢を飛び越えて高校で学んでいる姿に刺激を受けました。苦労が多いはずなのに、遅れてきた高校生活をエンジョイしている様子が、とても羨ましく映りました。自分も、かつて経験できなかった「高校生活」というものを味わってみたいと、純粋に思ったのです。自分の子供のような年代の生徒達と机を並べることには照れもありますが、かつて見た「青春学園ドラマ」に出ていた高校生のような気分です。先生方からも温かい励ましの視線を感じますので、50間近の高校生ですが、高校生活をエンジョイしながら勉学に励みたいと思います。(潮)



大規模施設の特徴を生かした潮騒ジョブトレーニングセンターの大運動会が今年も4月21日、初夏を思わせる汗ばむ陽気の下で北浦を望む行方市白浜の北浦湖岸丘陵地にある茨城県立白浜少年自然の家で開かれました。男女それぞれの入寮者に加え、関連施設の高齢者介護「デイサービス百寿」や潮騒食堂「おらげのかまど」、施設職員、潮騒家族会、支援者ら延べ約250人が参加して、工夫を凝らした競技プログラムで盛り上がりました。今年も主役の入寮者が目いっぱい楽しめるプログラム構成で、老いも若きも童心に帰っていい意味での“勝負”の醍醐味と、仲間の絆とは一味異なるチームワークの大切さを実感していました。(感想は次号で掲載)

1 複合イベントから衣替えし 運動会単独プログラムに

潮騒の運動会は一昨年まで、土浦市郊外にある筑波山系の里山の麓にある県立施設に、約2時間掛けて車を連ねて実施していました。運動会自体も単独イベントではなく、各種レクリエーションや野外炊飯などを兼ねた合宿プログラムの中に位置づけ、仲間内の取り組みとし

て実施してきました。しかし、施設が大所帯となり、高齢者が多くなったことから主に移動の交通手段が問題となり、会議では「リスクが多く中止してはどうか」の声もありました。

一方で、毎年秋に開催している潮騒フォーラムや都内で開かれるリカバリーパレードなどへの持続的な取り組みで、スタッフや職員がイベント遂行能力やノウハウ、自信を高めてきたことから、大規模施設のメリットである多様で多彩なヒューマンパワーを生かそうという逆転の発想で、昨年からは運動会単独のプログラムとなりました。北浦を挟む隣接市の行方市にある県立白浜少年自然の家が地の利となり、しかも同会場の芝生広場が運動会を開く好環境となりました。

2 応援合戦にも潮騒らしい “危うい”面白さを盛り込む

昨年の大運動会は関連の各施設や部署ごとに4チーム(赤・白・青・緑)を編成しましたが、今年は参加者全員を紅白の2チームに分けて「全員参加型」としました。また体力のない高齢者らも楽しめるようにプログラム種目



に工夫を凝らすなどしたほか、応援合戦にも潮騒らしい“危うい”面白さを盛り込むユニークな演出でした。

当日は、午前10時半から入場行進を行い、開会式では選手宣誓や優勝旗返還がありました。挨拶した栗原センター長は「私にはこのところ、不平不満、怒り、不安など日頃のうつぶんが貯まっています。自分自身やみんなへの怒りはあるけれど、この素晴らしい天気私を穏やかな気分にしてくれました。この大空に、みんなもマイナス感情をぶつけ、“今日一日”の精神で目いっぱい競技を楽しんでください」と激励し、怪我をしないようにみんなでジョオ体操をして体をほぐしました。

この後、入寮者(男女)や職員、家族会、支援者らも参加した紅白玉入場で競技がスタート。続く障害物リレーではマシュマロを探して小麦粉で顔を真っ白にしたり、酢の入ったかき氷を口から吐き出す選手が続出し、応援席の笑いを誘っていました。借り物競争で午前の部を終え、お昼の休憩には男女の代表が応援合戦を繰り広げました。男性チームが裸体を見せるなど“ヤバイ”場面もありましたが、何とか事なきを得ていました。これも潮騒流の演出として許容されていました。

3 運動会という非日常の雰囲気と醍醐味を感じさせる

午後のプログラムに移ると、綱引きや二人三脚、そして目玉の紅白リレーがあり、笑いだけでなく“ガチ勝負”場面が随所に繰り広げられました。最終的な得点は白130点、赤120点で白組が勝ち、優勝旗が栗原センター長から白組リーダーのツカさんに手渡されました。最後にセンター長が「朝のもやもやが、みなさんの全力投球の頑張りですっきりと晴れました。また日常に戻って回復に励んでください」と締め括りました。

この日ばかりは選手も応援団も本気モードに変わり、運動会という非日常の雰囲気と醍醐味を感じさせました。忙しい中で準備に奔走し、下支え役を担ったスタッフや職員の頑張りが光りました。また、すっかり場慣れした司会者の巧なりードと共に、奇抜なコスプレによる仮装メンバーが競技や応援の雰囲気を盛り上げていました。このように、スタッフの下支えと工夫を凝らした“アディクト向け”競技プログラム、デフォルメされた仮装メンバーの応援演出が、非日常イベントの潮騒大運動会を盛り上げ、入寮者の参加意識を高めているようです。(潮)

あぶさんの

新人さんいらっしやい!!

ADDICTION CASE STUDY No.1

カタさん

(アルコール依存症 46歳 東京都出身)



皆様こんにちは！依存症の“あぶさん”と申します。今月から新コーナーの仕切り(=インタビュー役)を任せて頂き、感謝の極みでございます。このコーナーでは潮騒ジョブに入寮してまだ日の浅い(1~3カ月程度?)仲間にスポットを当て、他の仲間たちと誌面による分かち合いをしていくものです。いわば紙面交流を通して、より良い自分の回復を目指してもらおうのが狙いです。

ご承知のように新顔の入寮者は、私達にとって「社会の臭い」を運んでくれる貴重な存在です。ヨレ方が激しければ激しいほど、施設で暮らすアディクトにとっては過去の狂った自分を映してくれる鏡(=反面教師)となる存在です。また読者の皆様には、文字通り依存症のリアルな現実を見つめてもらう素材でもあります。まさに一石二鳥、グレートな企画なのです！

ところで僕自身も立派な？アルコール依存症者です。ご多分に漏れず自殺未遂までして死にそこなったクチの人間です。なので、少しでも多くの方に生き方の不器用さ、もどかしさを伝えられたらいいな、と思います。よくメディアは依存症を悲惨な病気、悲劇の人生だと都合よく演出し、理解を示すかのようなそぶりを見せます。でも、最後には世論の動向を気にして「自己責任だ！」と手のひらを返します。本当にそうなのでしょうか？本コーナーでは縁あって潮騒ジョブに漂着し、仲間になった「いい加減な人生」をリアルに捉え、世間が常識としている自己責任をすべて放棄して依存症人生を突っ走って来た人、とんでもなく無茶な人生設計で破天荒な依存症人生を送ってきた新人さん達を紹介していきます。乞うご期待!!

あぶ あぶさんです。それでは、よろしくお願いします。

カタ こんには。カタです。始めまして、って言っても、あぶさんとは毎日顔合わせてるじゃないですか？

あぶ そうなんだけど、一応形式上みたいな？考えてみるとカタさんとじっくり話すのって、これが初めてで

すね。ちなみに潮騒に繋がって何カ月になりますか？

カタ もう2カ月ですね。それまでは都内の精神科病院に入院していました。

あぶ どんな病気なんすか？

カタ 統合失調症とアルコール依存症です。統合失調症には今も苦しめられています。

あぶ あーっ、統合失調症って電波とか幻聴とかがやばい世界なんですよ？

カタ なんか勘違いしてるみたいですけど…。気持ちが高ぶり過ぎておかしくなったり、逆に下がりすぎて死にたくなったりって感じかな。僕の場合は幻聴や幻覚なんてあんまり見ませんよ。

あぶ ほー、そうですか？でも幻覚は見るんじゃないの？どれくらいの頻度なの？

カタ 3日に1回くらいのペースですね。

あぶ 結構頻繁に見とるやないの！お酒の他には悪いことしてへんの？

カタ まあシンナーとか覚醒剤ぐらい、タバコとパチンコも少々、これって違法じゃないからね。

あぶ もうええわ！悪いやつちゃな、かなわんで。

カタ その品のない関西弁やめてもらえませんか！じゃあ、あぶさんは？結構悪いことしてきたんじゃないの？

あぶ ぼくは昔サプリメントの催眠商法やってたよ。高っかい値段で売るの。

カタ 儲かった？

あぶ ひと月に800万くらい売り上げました。

カタ スゴい！で、給料は？

あぶ 18万円だね。

カタ 少なっ！僕はパチンコのゴトシやってたよ。

あぶ あー、あの磁石とか電磁波とか使って玉をいろいろと動かすやつでしょ？

カタ 古いなー。今は仲間ていゝんなパチ屋に従業員として潜り込んで、新台入れ換えの夜、「絶対出る台」を

押さえておくの。そいで仲間みんなで翌日打ちに行くスタイルだよ。だから、がっばり儲かるよ。

あぶ それってヤバくない？

カタ 3回懲役に行きました。

あぶ あかんやないかい！でも本当は何回いったの？

あぶ 10回だね。

カタ うん。多いですね。で、過去の経験から学んだことはあるんですか？

あぶ 急に敬語になっちゃったね。対人関係と弱いものいじめはいけないということぐらいかなあ。

あぶ まじめですね。

カタ まだ敬語だ。普通に話しましょ。中学校の時に妹のことですごくイジメられてね、それも妹の障害をつついてきて、毎日相手を殺しちゃう妄想をしてたね。お酒、シンナー覚えたのもあの頃だったね。

あぶ そのあとは？

カタ 人並みに働いたよ。パチンコ屋、引っ越し屋、水道工事屋、不動産屋、パチンコのゴト師…。で、焼酎が好きで毎日一升酒。でも二日酔いがひどくなると幻覚幻聴がひどくなって表に出られないから、だんだん仕事に行けなくなってやめちゃうんだよね。

あぶ ダメ人間ですねー。施設に入寮したのは？

カタ うるせーよ。25歳のとき全国でも大きかった施設に入ったよ。

あぶ 今カタさんは40才後半でしょ。懲役10回ってことは施設にいた時とかも、何かやらかして捕まってたの？

カタ うん。覚醒剤とかでね。

あぶ あっ、そう。で、なんでその施設飛び出したの？

カタ 仲間内で揉め事が多かったり、窃盗されたりして嫌になってね、それで出てきました。

あぶ 潮騒ジョブではまだ2カ月ですけど、どうですか雰囲気とかは？

カタ 入って既に4回、お酒飲んでしまいました。

あぶ なんか理由とかあるの？

カタ 入寮者の人に誘われて。

あぶ とんでもねー施設だぜ。最近、新しいこと始めたそうですね。

カタ うん。下津海岸の花壇の草むしりを仲間と始めたよ。腰が痛いけど、やることあるっていいね。夢は農業隊に入って“潮騒米”をつくることです。

あぶ では最後に、ゴト師のカタさん、あなたにとってお酒とは？

カタ 「体を壊す毒である」かな？

あぶ 今日はありがとうございました。



デイケア施設で 潮騒避難訓練

「火事です!!」—— 潮騒ジョブらしく冗談交じりのアナウンスで始まった、日常活動をしているデイケアでの潮騒・避難訓練。「いざ実際に家事が起こったら、本当に施設は対応できるのだろうか?」「2年前にあったとされるボヤ騒ぎの時はどうだったんだろうか?」…。そんな心配をしながらも、「面倒だな、早く終わって欲しいなあ」というのが本音でした。訓練が終わると、大変さ、楽しさありの新しい発見もあり、参加して良かったです。特に感じたのは、仲間のみんなの強さというか、開き直りというか、いい意味での変化に動じない「構え」でした。それは不思議な強さ。何が起きても何とかなりそう。万が一大火事が起こったとしても（いつそのこときれいに燃えて…???不謹慎?）きっとそれも乗り越える強さ。日頃からハプニングを正面から受け止めるそれがなんなのか肌で感じとる。それが強さの秘訣、不思議な力につながっている。そう思わせてくれた、避難訓練でした。（さとし）



がーちゃんの 極私的懺悔録 「他人事だと思って…」

その
2

家族の保険金2千万円得るも 空しく浪費する日々

【PRめいた著者プロフィール】

- ◆ アノニマスネーム「ガーゴイル」(36歳/男性)
- ◆ 出身：北関東の田舎町
- ◆ 前職：元詐欺師(自称)のような仕事&元介護福祉士
- ◆ 病歴：鬱病・発達障害・自閉症・
各種依存症(薬物・アルコール・女性・対人関係 ets)



世をすねたアディクト極道介護士の私に、世間様は「あんた、そないに自堕落な生活送つとると、そのうちにバチが当たりまっせ!」と有難い説教を垂れるのだけれど、そんなご忠告なんてくそくらえ! こんな自堕落な私が、なぜに開き直ったように大きな態度に出られるか? 答えは簡単、貯金なのですね。ええ、家族がまとめて死んだんで、保険金がかつつう入ってきたんですね。それも総額約2千万円。「どうだ!」という感じですね。刮目(かつもく)して私を見よ、ですね。目をこすって私をよく見ろ、ですね。

◇ ◇ ◇

なにしろ、これだけありゃ、しばらく仕事を休んでもバチは当たらぬし、これでも私は結構な倹約家なのです。実際、これだけの大金を持っても、毎日家で飲む酒は750円のブラックニッカのみなんですえ。

ええ、分かってますよ。2千万円もありゃ、シーバスや角瓶などのハイランクウイスキーだって飲めるってことぐらいは。ただコストが掛かんねん。ブラックニッカで月の酒代が3万円も掛かってっているの、倍なら6万円。6万出すなら、お気に入りのキャバ嬢にヴィトン送りくれてやって、一発こました方が楽しいってモンでしょ。

見なさい、このバランスのとれた経済感覚。なんとも見上げた博愛主義者じゃありませんか。自画自賛? まあここ最近、キャバクラで飲んでるうちにグシャグシャに酔ってしまった、指名の子が別な酔客に行ってしまうのが嫌で、開店から閉店まで指名し続けて、さすがにぞっこんのキャバ嬢にも嫌がられたり…。

こうして20万円ほど詰めた財布が、翌朝には1500円

になっていたりすることも何度かあって、さすがに「このままじゃいかんなあ」と思ったりするも、情けないことに私の場合は行動が伴わない。休職期間をいいことに、グズグズと昼夜を問わず酔っぱらっていて、もはや毎日が二日酔い状態。「なにそれ?」って言うなかれ。例えていえば、完全な腐れ杜子春か、あるいは歌を読まない山頭火、状態なのです。もっと分かりやすいのは作品を書かない太宰治かな。

◇ ◇ ◇

とにかくヨレっぱなしの私にとって、「社会貢献」と言えば家族の遺産を酒代や女代に浪費して払うこと。まともに納めている税金と言えば酒税とたばこ税。この前死んだばかりの父親の住民税の督促があった際に、役所に電話したところ「今期中になくなられた場合は69万円の課税対象になります」だと。

あまりにも人をなめ腐ったことを抜かすので、私はこの小役人に「死人から金をむしり取ろうってのかい、いい見してけつかるのう。あんさん、公務員よりヤクザの方が向いとるんちゃいますか?」と言い放った。

それっきり私は、自分自身の所得税、住民税、自動車税の支払いもボイコットしている。見下げ果てたクズ野郎! になるのに、家族が死んでから半年もかからなかった。

まあしかし、このままでいいかというと、そういう訳にもいかず、形だけでも堅気の勤め人になっていた方がよろしいかしらんなあ…。そう思い直し、私は一念発起して酒を買うために行きつけのファミリーマートに向かったのだった。悲しい!! (以下次号に続く)



潮騒 人間塾

栃原 晋太郎さん(栃木ダルク)

高い回復実績を可能にする
独自メカニズムの一端に触れる

地味ながらも社会の片隅で意義ある活動をしている人達から生の話を伺う自主企画「潮騒人間塾」。新年度のスタートは栃木ダルクの要職を担う栃原晋太郎さんにデイケア施設で講話をお願いし、主に同ダルクの活動について示唆に富むメッセージをしていただきました。なぜ、他のダルクよりも圧倒的に多い回復者を輩出できているのか、どうして行政や病院、刑務所など関係機関・団体から厚い信頼を得ているのか、実績ある統一したプログラムとは？—— など、隣県にありながらも交流機会の少ない栃木ダルクの優れた施設概要に触れることができ、潮騒にとって参考になるヒントを数多くいただきました。

栃原さんによれば、栃木ダルクは栃木県内に5施設(女性施設を含む)を持ち、約60人が入寮者して依存症からの回復を目指して日常活動を展開しています。最大の特徴は、回復度合いに合わせたステージ制による段階的なプログラムを確立していることです。那須の山奥で初期段階のケアに始まり、中期ケアを経て最終的に宇都宮施設で社会再参加できるまで一貫したケアプログラムを整備、これが好結果を生み行政などの信頼を厚くしているようです。重複障害にも対応する農業主体の那珂川ファームや潜在ニーズの高い女性専用施設も手掛けています。家族相談も充実させ、中間支援施設として自助グループや社会復帰、退寮後のフォローも忘れません。アクセスの多いHPには施設としての完成度の高さが伺え、潮騒にとっては羨ましい限りの施設陣容です。

その背景には、早い段階から欧米の治療共同体に目配りして研修を重ねながら、そのプログラムを試行錯誤しながら採り入れ、実情に沿う“栃木ダルク版”として独自に練り上げた手腕と歴史があり、それが施設発展の歩みと重なっています。栃原さんはメッセージで入寮者の実態などを紹介しながら、時間は掛かってもスパンの行き届いた独自プログラムを武器に、当事者の心情に届くきめ細かなケアにじっくり取り組み、仲間として入寮者との深い絆、信頼関係が築けている事が好結果に繋がっている、と振り返りました。潮騒の入寮者からも盛んに質問があり、とても意義ある充実した人間塾でした。以下、参加した女性メンバーの感想です。(潮)

感想文 恨みから感謝に変わる家族修復では両親に感謝しかない

内容が濃く、あっという間の時間でした。私は施設に関して「るみの家」しか知りません。他のダルク施設との違いも分かりません。でも、話を聞くとステップの大切さ、自分を支えることの大切さなど、今自分が学んでいることと同じでした。やっぱり間違っていなかったという思いと、全国に苦しんでいる仲間、回復し続けている仲間がいるんだと知り、勇気づけられました。栃木ダルクにも女性ハウスがあり、運営が凄く大変なことを聞き、笑ってしまいました。女性はやっぱり難しいとのこと…。家族の修復では恨みから感謝に変わるという話で、私はまさに今は両親に感謝がなく、共感しました。私は回復途中でまだまだ仲間とるみの家が必要なんだ、と痛感しました。全国の苦しんでいる仲間に、私も栃原さんの様なメッセージを運べたらいいなとも思いました。(めい)

受刑者からの手紙

一日も早く潮騒にてプログラムを受ける生活を送りたい

早速ですがセンター長始め志GWさん、入寮者の皆さん、お元気でしょうか。3月も終わりに近づき4月に入ろうとして居ます。当所も段々と暖くなり、敷地内の雪も解け、めっきり春めいて来て居る今日この頃です。まずは「どっこい生きてます」を送って頂きまして、有難う御座います。「どっこいー」は本当に私の心の支えと成る物です。潮騒での行事・入寮者の笑顔を見る事が出来るからです。私自身の潮騒での生活を思い浮かべ、妄想したりして居ます(笑)。潮騒では“アルコールの方が多し”との事でしたが、覚醒剤での入寮者は何人位居るのですか？ミーティングやNAは何人位のグループに分かれているのですか？NAの会場は何ヶ所位あって、会場は毎日変わるのでしょうか？後、散髪代等は毎月毎にお金を頂けるのでしょうか…？等々、気に成る事の一つです。教えて頂ければ幸いです。

遅れ馳せながら、シゲさんお誕生日おめでとう御座います。私と同年なのですね。今後とも宜しく願い致します。センター長も2月がお誕生日だったとの事、お二人とも併せておめでとう御座います。私には75歳と云う年は想像が出来ません。私の残刑も2年と数日と成りました。今回の務めは長く感じられ困ったものですが、センター長が引受人と成ってくれた事により、仮釈も貰えるとの事です。一日も早く潮騒にてプログラムを受け、少しでもクリーンを長く続ける生活を送りたいと思って居ます。

シゲさん、潮騒は人数の多い施設ですが、その大人数での生活の仕方等、何か秘訣はありますか？未体験の事ですので、幾分私よりも年上の方が多し様ですが？それではまた“どっこい生きてます”をお願いすると共に、季節の変わり目と思います。センター長はじめシゲさんお身体には充分お気をつけ下さい。(北海道 K・Y)

75歳で精力的に活動続ける姿には感動を覚える

栗原様、いつもお世話に成って居ります。3月も半ばを迎えましたが皆様、如何お過ごしでしょうか。先週は初夏を思わせる様な陽気だったとの事、桜の便りももう直ぐなのではないかと思ひます。ここでも春の足音が聞こえ始め、雪解けも少しずつではありますが進んで居る様です。でもやはり北国、春の景色にはまだ遠い様な、そんな気に成ります。

先日「潮騒通信」2月号が届きました。栗原センター長も75歳に成られた様ですね。おめでとう御座います。色々考える事はあると思ひますが、75歳まで歳を重ねられる事は素晴らしいと思ひます。私自身も見習う出来事です。精力的に活動が続けられている姿には、私も感動を覚えます。私も今年で38歳に成り、誕生会のお菓子ごときで喜んで居ましたが、そろそろ本気で己の人生と向き合わねばいけない、と思わせてくれました。ですが、3月に入り原因不明のジマシンに苦しみました。人生初の出来事だったので驚きました。体調不良か、ストレスか、良く分かってはいませんが、医務で注射をして貰いやっと落ち着いて来ました。これから潮騒の方に帰る訳ですが、皆さんに迷惑を掛ける事無く生活したいと思ひます。潮騒の皆さんの励ましは、いつも自分を元気づけてくれます。シゲさんからは「継続は力なり」と、いつも言ってくれて居ます。

私自身に新しい生き方が出来るのかどうかは分かりませんが、栗原センター長や潮騒の皆様の言葉を信じて頑張ってみようと思ひます。シゲさんは2年8ヶ月もクリーンで居られて居るのですね。私は「凄いな!!」と心から思ひます。私もシゲさんを見習って年月を重ねていけたら、と思ひて居るので、何卒宜しく願い致します。私も残り1年と少し、潮騒の皆さんに会える日を楽しみに毎日を大事に生活していこう、と思ひます。

(北海道 S・T)

このところ“潮騒兄弟”受刑者の手紙が多くなっています。栗原センター長が言うように、縁あって潮騒に繋がった仲間はすべて家族であり、失敗(スリップや刑務所への逆戻り)も回復への“必要悪”です。囚われの身でも腐らず前向きに、回復への希望を持ちましょう。自分の怠惰に甘える事なく、潮騒への復帰を胸に秘めながら…。兄弟の皆さんの再登場を心待ちにしています。

登山で云う所の「胸突き八丁」を意識させられる

シゲさん代筆の手紙と「どっこい生きてます」1月号が3月1日に確かに手元に届きました。有難う御座います。そこで先ず私のお詫びですが、私の表現か説明が悪かったのか、差し上げた手紙の行き違いなのか、1月号は2月7日に既に送って頂いて居りました。シゲさんは手紙で「大変失礼しました」と仰せに成られて居りましたが私の勘違いで、誤りでした。お手数をかけ誠に申し訳ありませんでした。反省して居ります。

3月2日、此方は夜半から強風が吹き、内心春一番かと思いきや只の低気圧で、まだまだ春到来とはいきません。当所はインフルエンザが大流行し延べ何十人もが入院の状態で、本来ならば3月1日から屋外運動の予定でしたが、中止に成ってしまいまして、全員マスク装着の措置の有様です。この手紙は3月5日発送ですが、この時点で残り76日と成りました。登山で云う所の「胸突き八丁」とは、この様な時を云うのでしょうか。最後に成りますが、センター長の目指す「自分の食い扶持位は自分で稼ぎ出そう」と言う考えには大共感致して居ります。

(山梨県 M・K)

とんだ頓珍漢で自分の満期日を間違ってしまった

栗原センター長、シゲさん、お元気ですか？ お便り届きました。大変有難う御座います。シゲさん、お元気な御様子で良かったです。これからも頑張ってくださいと思います。カレンダーも3月に入りました。まだ外の白色の雪景色に変わりはありませんが、日中の陽光が暖かく成って来て居る様な感じがします。私は先日、自分の満期日を間違っていました。とんだ頓珍漢でした。大変申し訳ありません。しっかりと頑張りたいと思います。

栗原センター長様、シゲ様、どうかこれからも、宜しく願い致します。

其方はやはり、“暖かい陽射しののたろな”と思います。これからもお元気で毎日をお暮しになされます事、御健康を心より御祈念させて頂きまして、この辺りで失礼させて頂きます。(北海道 H・S)

一部猶予付き判決は栗原さんの出廷が大きかった

(情状証人として)裁判への出廷、有難う御座いました。お陰様で無事に終わりました。判決は懲役2年8月、一部猶予5ヶ月、未決通算90日でした。弁護士によると一部(執行)猶予が付いたのは「栗原さんが鹿嶋から駆けつけてくれた事が大きな理由に成った」との事。裁判所に来るまで1時間以上はかかりますか？ 往復で2時間以上、自分の為に遣って頂きまして、大変有難く思っています。シゲさんからもお手紙を頂きました。有難う御座います。資料を見ながら自分なりに出所後どうするか？を少しずつ考えていこうと思います。

ここに居て覚醒剤を辞める事は当たり前の話で、逮捕された人全員が出来る事です。本当の勝負は此処を出てからだと思いますが、ちょっとしたきっかけでまた使って仕舞う人も居ると思います。自分も今回そうでした。出所してから1年半でまた刑務所に戻る事に成りました。出所後2年間は一部執行猶予の分が保護観察と成って定期的に尿検査がある事を聞きました。家族や友達もこの方が安心すると思いました。満期まで後2年間ありますので、その間どうして覚醒剤を遣る様に成ってしまったのか、をまず思い出せる様に自分なりに考えてみようと思います。

(千葉県 T・A)

しおさい、俳壇

4月のお題

卒業

選者 桐本石見

わが俳句人生の歩み・No.51

センター長 栗原 豊

私の人生における自助グループ初体験に面食らう

前橋刑務所で同囚だったイラン人からの依頼で、神社に埋めたという覚醒剤探しに狂奔したものの、結局は見つからなかった。徒労感を引きずりながら、私は姪と前橋市内のファミレスに入り、しばし休息を取った。私は姪を拝み倒して注文したグラスビールを一気に飲み干すと、これが引き金になってアルコール依存症の特長である「連続飲酒」の欲求が強くなっていった。こうなると“邪魔者”とは一刻も早くおさらばしたい。しかし、姪も当事者だけにアディクトの心理はお見通しだった。私を一人にしたら、たやすく最悪の状態に戻ることを熟知しており、なんとか夜間の自助グループ(NA)ミーティングに連れて行こうと必死だった。やがて私達は会場となっている、市内にあるキリスト教会の一室に足を踏み入れた。

「私は今日、前橋刑務所を出所してきました。覚せい剤とお酒が大好きな男です…」。還暦を迎えて間もない私だったが、姪に促され不承不承にそう切り出した。自分の“生き恥”を晒すことに抵抗のない不思議な雰囲気の中で、隣に座る姪に後押しされる形での、第一声だった。今となっては何を話したか、話の内容は覚えていない。恐らく過去の苦しみをつぶやいたのだと思う。これも不思議だったが、私が話し終わると周囲からは共感と激励の大きな拍手がもたらされた。驚く間もなく、今度は参加者一人ひとりから握手とハグを求められ、そういう習慣がなかった私は赤面し、ひどく面食らった。

「何なんだ、これは?」。頭ではうまく理解できない熱烈歓迎ぶりだったが、一方で奇妙な安堵感を覚えた。それまで私は虚勢、見栄、根性に命を張り続け、その緊張を和らげる手段としてアルコールと覚醒剤におぼれた。欲望に従うだけの行為が、いつの間にか孤独を埋める手段となり、気が付くとやめるにやめない、コントロール不能状態に陥っていた。そして何もかも失い、刑務所との往復生活…。世間からは白眼視され、バツテンを付けられてばかりの生き方しかしてこなかった私が、ここではドラマの主役のように扱われている。私は出獄したその日に、劇的な「許しの場面」に遭遇した。これが私の人生において、自助グループ初体験だった。でも、この後、私は三日三晩ホテルに籠り切りになり、アルコールの連続飲酒で記憶をなくしてしまう。気が付くと、そこは警察署の留置施設の中だった——。(次号に続く)

子に譲り

農事作業を卒業す

あへ

卒業は学業等の事が一般的だが、人生の節目も卒業と言える。近年は農林業、漁業などは後継者難で荒れる田畑山林も多いが、子が後を継いでくれるのは嬉しい。先祖の田畑を守り継いだ安堵と老齢の身を感じる句です。

特選句

卒業や
子離れのまた親離れ

まこ

動物の生態テレビなどで親鳥が子鳥に餌を運ばなくなるシーンがあります。人間社会も同じで成人になれば仕事に就き、早いうちに結婚し独立してもらいたいのが一般的な思い。しかし諸々の事情で子離れ親離れが出来ず、歳を重ねると双方に不幸の生じる事もある。卒業は祝いだが、別れの時期でもある、しみじみした句。

特選句

両の目に
光の戻り春霞

ゆたか

作者には以前「右の目の術後眩しや冬日向」があり、今回は左目の手術で両目で物が見える様になった感動の詠でもあり目出度い。伊達政宗は隻眼でも時勢が見えると自負したと言われるが、両眼の見える作者には益々の活躍をお願いしたい。また老いには少しづつ病が忍び寄る思いの句でもあります。

特選句

今月の秀逸句

百歳へ

踏み出す六十路

卒業す

ひろ

人生の中で学校の卒業と定年は大きな節目で感慨深い。ことに六十歳の定年は人生も半ばを思い、希望と自由の身に百歳への第二の人生を目指す。面白い俳諧の句です。

卒業や

一生友よと

誓い合ひ

みく

中高校生にもなると、友人としての絆も深く別れの辛さも格別。ことに遠方の学校へ進学や親の転勤で別れる子達の別れは悲しく、生涯の友の誓いもする。青春時代が懐かしい句です。就職で故郷を離れた日 생각합니다。

制服の

ボタンを貰ひ

卒業す

いるか

戦中出征時に彼女へ胸に近い第二釦をプレゼントしたのが始まりとも。また岐阜県斐太(ひだ)高校では大正の頃から白線流しがあり、女子はスカートを男子は帽子の白線を外して繋げ、近くの大八賀川へ流すのが名高い。初恋など思い出す句で懐かしい。

高齢者

運転免許

卒業す

おの

現代は自動車社会だが高齢者の事故も多い。各種の検査で危険と判れば返納が良いが、田舎町では自動車が無いと不便でもある。実感の句で私もそのうちに、と思います。

卒業と

入学式は

花の中

文秋

以前、大学の入学は外国にならない秋が検討されたが、桜の頃を思う人が多く現状のままである。家庭や道辺の桜の花に送られ迎えられるのは日本人の風雅心でもあるが、寒中や雪の頃の受験も難儀で一考を思い、子の日を懐かしむ句。

離れ居て

子の卒業に

涙せむ

ゆうこ

現代は離婚や家庭の事情で親子離れて暮らす家庭も多く、子供には可哀想な出来事で人間社会の不幸の一つでもある。遠く離れていても無事卒業した知らせに親の責任を思い涙する。私も戦争遺児で切々の思いの句です。

佳作

卒業や一步踏み出す新境地	くま
思い出の卒業写真色褪せむ	みく
嬉しさややっと自由の卒業だ	よっちゃん
道々に卒業姿の親子かな	ゆーみん
桜咲く卒業式やおめでとう	ちゃこ
卒業や子ら夫々の夢抱き	めい
親友と別る淋しさ卒業す	ぴのこ
母に向き卒業式で礼を言ふ	しま
先生にさよならするよ卒業式	あきら
卒業に未来が変わる思ひかな	めーてる

卒業や夢よ叶えと我が祈り	れいこ
卒業は明日へ繋げる架け橋に	こば
卒業は大河へ出づる思いかな	あお
もう卒業教え子達よ頑張れよ	なん
青空が見守る祝ひ卒業よ	ひろ
菜の花や筑波山麓小貝川	ゆたか
これっきり酒と最後だ卒業だ	モト
止めている今その時が卒業さ	ビート
卒業や孫の祝ひのお赤飯	シゲ

どっこい

私も生きてます～我が回復記～「ブーちゃんの回復記」

第16回

新しい彼女と元カノと自助グループで鉢合わせし修羅場に

仲間のいる自助グループ(AA)への複雑な思いを抱えながら、彼女との半同棲生活が続きました。彼女は親には「友達の所に居候している」と誤魔化していましたが、いつまでも両親に嘘をつき続けることはできないとして、2012年10月には僕のアパートの近く(歩いて10分ほど)にアパートを借りました。父親はおかしいと薄々感じていたようですが、場所が分かれると「なんだ、あいつのすぐ近くじゃないか」と嘆いたようでした。彼女の両親をだました形でしたが、僕の方も苦しみました。お互い飲んではやめ、飲んではやめを繰り返し、彼女の方は、あわや交通事故という危ない目にも何度か遭い、AAの仲間に助けも求めたりもしました。

僕達二人はもはやお手上げ状態となり、「僕の方が入院しちゃえば彼女は来れないだろう」と安易に考え、前年に入院した都内の精神科病院に再度入院しました。彼女も翌年1月には、静岡県内の精神科病院に入院し、治療プログラムを受けて7カ月後には退院しました。でも、女性依存が強くなっていた僕は、その間に新しい彼女をつくってしまったのです。心と体の孤独を癒す思いからでしたが、彼女もアルコール依存症でしたから、早晚どうなるか、結果は見えています。当時の僕は彼女が出来たことをAAの仲間に見せびらかしたいという、歪んだ見栄もありました。そうしてまた自助グループに通うようになりましたが、何とそこで元の彼女との鉢合わせになりました。当然ながら、元カノは「あんなに信じていたのに私は騙された」と怒り狂い、修羅場と化しました。そんなことがあったので、僕はしらふでは参加できず酒を飲んで自助グループに通うようになってしまったのです。元カノの方は依存症の悪化で2週間後に、以前と同じ静岡県内の病院に入院しました。

そうした状況を見かねたAAの先行く仲間は冷静に僕を諭しました。「彼女にとってオマエは酒だ。オマエにとっても彼女は酒だ」「飲んでもなくても、もはやお互いの存在が回復の邪魔をする者同士だから、一緒に居ること自体が不幸なのだ」と。ところが狂った頭の僕は、その有難い提案を受け入れるどころか、逆切れしてしまったのです。回復からほど遠い状態の僕は、身勝手にもその提案が自分に対する挑戦だと曲解して、「よおーし、じゃあ俺、女いなくなつて何とかしてやる。生保切つて自立してやる」と大見えを切って、ますます墓穴を掘っていくのでした。

(次号に続く)

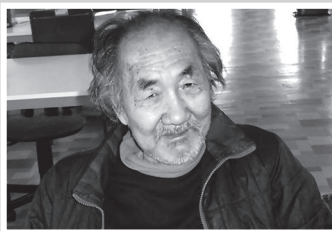
4月のバースデー

たかひろ



年取ったな...

チョンボ



これからも頑張ります。

しげのり



クリーンを続けます。

ぱろ



いつまでもがんばります

ぎん



諸般の事情で一か月遅れのバースデー、おめでとう by とむ



4月の行事

- 4月8日 秋元病院メッセージ
- 4月12日 潮騒俳句会
- 4月14日 潮騒人間塾(栃木ダルクメッセージ)
- 4月21日 潮騒運動会 & 家族会
- 4月29日 潮騒アディクションセミナー
- 4月30日 NA 北関東コンベンション撮影会

5月の行事予定

- 5月3日 潮騒田植え
- 5月4日 潮騒ピザ & スパゲッティづくり
(白浜少年の家)
- 5月5日 NA クリーンバースディ
- 5月10日 潮騒俳句会
- 5月12日 潮騒人間塾(日本ダルクメッセージ)
- 5月13・19日 秋元病院メッセージ
- 5月27日 潮騒家族会

献金・献品を頂いた方(4月15日現在)

- ・内堀 高良 様 ・吉田 明 様 ・Boo Bu 様
- ・上田 礼子 様 ・川島 様
- ・栗原 浩子 様 ・佐久間 様
- ・K&G 企画 様 ・家族会一同 様
- ・幸友住宅 様 ・ヘアーサロン木川 様
- ・増古 四郎 様 ・白井美代子 様

今月も献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。
本当にありがとうございました。

おかげさまで潮騒JTCは、回復のためのプログラムを
実践することができておりますことをご報告いたします。

今後ともご支援くださいますよう、
なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

※その他匿名の皆様からも献金・献品をいただきました。ありがとうございました。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただいております。どうぞご理解のほどをお願いします。

編集後記という名の独り言

僕は金子みすゞの詩に書かれた「みんなちがってみんないい」(「私と小鳥と鈴と」)の世界観が好きだ。人が生きていくには確かに規律とか調和も大事だけれど、最低限のルールの下でそれぞれがのびのびと個性を発揮して好きなように生きられる世界が認められるべきだと思う。オーケストラのように、個々の持つ能力や個性が存分に発揮されながら、全体として違和感なくハーモニーが奏でられたら、どんなに素晴らしいだろう▼依存症の世界はどうだろうか? 世間では誤解と偏見に満ちた視線で、意志の弱いダメ人間のレッテルを貼って一括りするけれど、内部に居ると実に個性的な人達の集まりだと自覚させられる。皮肉に言えば、世間は「自分達とは異なる人種」と色分けすることで、時代の流れで不可避に崩れつつある地域コミュニティを墨守することに躍起になっているのではないのか、との半畳を入れたくなる▼とはいえ潮騒に漂着した人達は身も心も疲弊し尽くして漂着してくるだけに、内面の屈折度がとても激しい。圧倒的に低い自尊心と自己肯定感に加え、物事に素直に向き合えず、聞く耳を持たない歪んだ自己中心性、そして強い猜疑心と自傷願望、これに攻撃性が加味されると、とても一筋縄ではいかない。でも、不思議なことに仲間の中に居ることだけでも、「いいくすり」になる。何とか腰を落ち着けて回復プログラムに取り組めるようになると、徐々に自分を取り巻く世界の様子が変わってくる。これまで自分を全否定してきた世界に希望の光が差し込んで来るのだ▼もちろん依存症は厄介な病気だから、ストレートに回復ルート乗れるの保障はない。だから「今日一日」の取り組みが意味を持つ訳だが、こうしたダイナミズムは日本の横並びの風土にはなかったものだ。政治、経済、教育、文化、社会生活…に至るまで、農耕社会を根底に持つ民族性も手伝って「和を以て貴しとなす」の論理と倫理が皮膚感覚にまで染みついている。だから多様化の時代が声高に叫ばれるのに、今もって個性ある存在は潰されがちなのだと思う▼「依存症は個性だ!」とまで言い切る自信はないが、個性に富む人達が集まる潮騒という空間は、当事者ではない僕にとっては、人間の不可解さ、内面の奥深さを目の前でリアルに見せてくれる大切な“学びの場”と言える。それにしても、多様な個性がぶつかり合い、日々トラブルは絶えないのに、施設が潰れないのは「なにものか」のご加護なのだろう。神に感謝▼ちなみに我が家は仏教、育った実家は神道、学んだ大学はキリスト教…、外国人から見たら信じられない、この「いい加減さ」が依存症の回復に通じる「救い」なのだ! (市)

潮騒通信 どっこい生きてます! 2018年4月

Contents

- P② ファザー&マザーシップの適度なバランスが重要
- P③ 新年度も潮騒のスタッフ仲間2人が 地元の県立高校に入学
栗原センター長ら「潮騒の先輩高校生」の存在が刺激に
- P④ 第2回 潮騒大運動会
- P⑥ あぶさんの「新人さんいらっしゃ!!」
- P⑦ テイクア施設で潮騒避難訓練
- P⑧ がーちゃんの極私的懺悔録 その2
～家族の保険金2千万円得るも空しく浪費する日々
- P⑨ 潮騒人間塾 栃原晋太郎さん(栃木ダルク)
～高い回復実績を可能にする独自メカニズムの一端に触れる
- P⑩ 受刑者からの手紙
- P⑫ しおさい俳壇 4月のお題「卒業」
- P⑭ どっこい私も生きてます「ブーちゃんの回復記」/ 4月のバースディ
- P⑮ 行事予定 / 編集後記 / 献金・献品 / 目次



■ 編集・発行:

特定非営利活動法人
潮騒ジョブトレーニングセンター(本部)
〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 34号
〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10
TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091

潮騒アディクションビレッジ会館
(潮騒アディクション・ケアセンター)
〒314-0031 茨城県鹿嶋市宮中 4-4-5
TEL:0299-95-9991 FAX:0299-95-9992

E-メール k.s-darc@orange.plala.or.jp

ホームページ http://shiosaidarc.com/

